

仙台地方に江戸時代から伝わる^{たこ} 凧

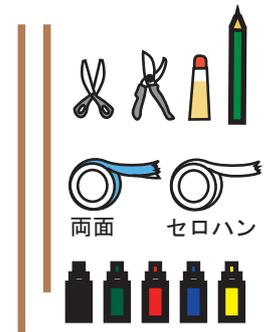
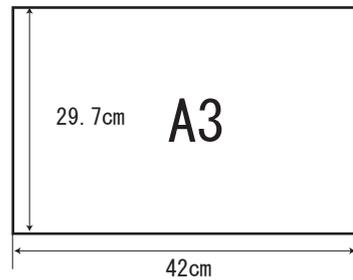
するめてんばた 作りにチャレンジ！

「てんばた」は漢字で書くと天旗で、「凧」という意味です。形がスルメに似ていることから、「するめてんばた」と呼ばれています。江戸時代からある凧で、仙台を中心とした地域の伝統的な手作り凧です。

1. 材料と道具を準備しよう！

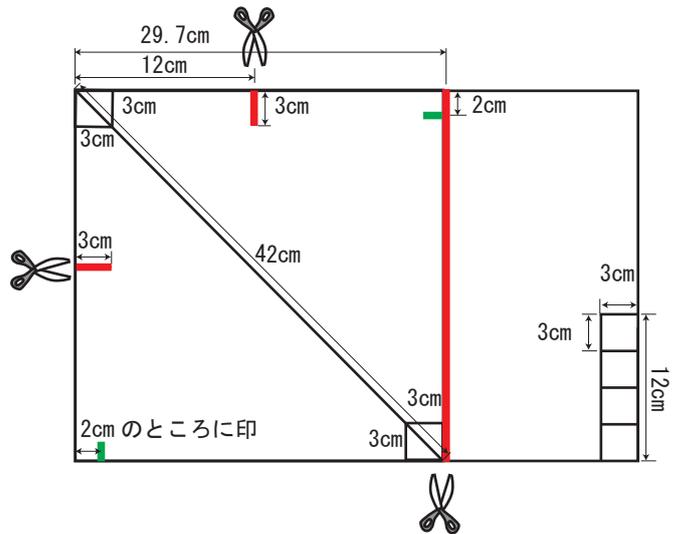
材料：A3 白紙1枚(できれば和紙またはしょうじ紙)、竹ひご径1.8mm 2本。

道具：はさみ、えんぴつ、マジック、のり、両面テープ、セロハンテープ、植木はさみまたはペンチなど。



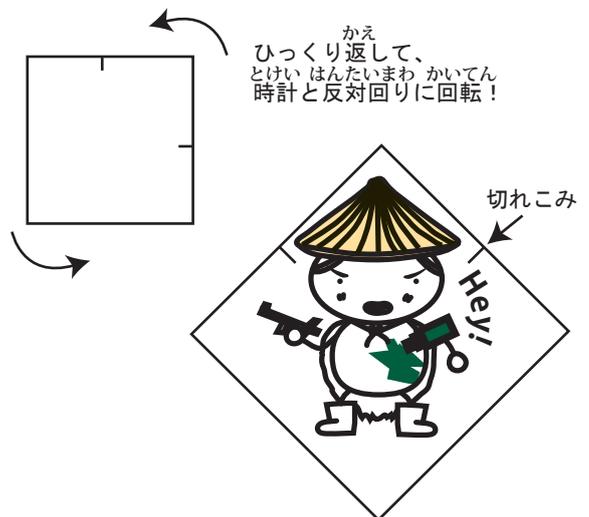
2. 凧の大きさに紙を切ろう！

A3の白紙をヨコに置いて右の図のように線を書こう。線を書いたら、図の赤色のところだけ切ってね。



3. 凧のおもてに絵を描こう！

紙をひっくり返して、ダイヤの形に置こう。切れこみのある方が凧のあたまになるよ。紙を正しく置いたら、絵を描こう。絵を描いた方が凧のおもてになるよ。文字を書いたり、好きな色をぬったり、自分だけの「するめてんばた」にしよう！



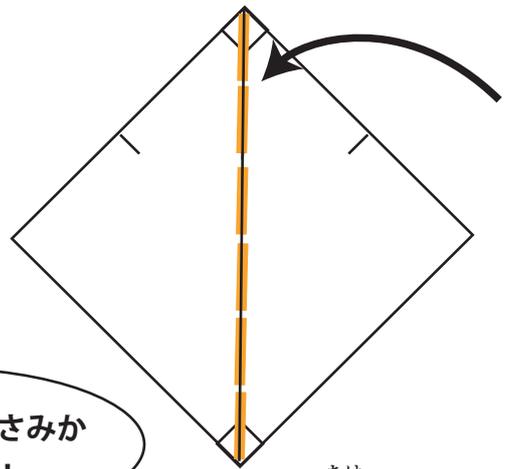
4. 凧のウラに竹ひごの「ほね」をはろう！

① タテの竹ひごをはろう。

最初に線を描いた方(ウラ)に返してまっ
すぐな線がタテになるように紙を置こう。
線の上に両面テープをはり、長さ 44cm に
切った竹ひごをはろう。

* のりではってもいいよ！

たけ うえき
竹ひごは植木はさみか
ペンチで切ろう！



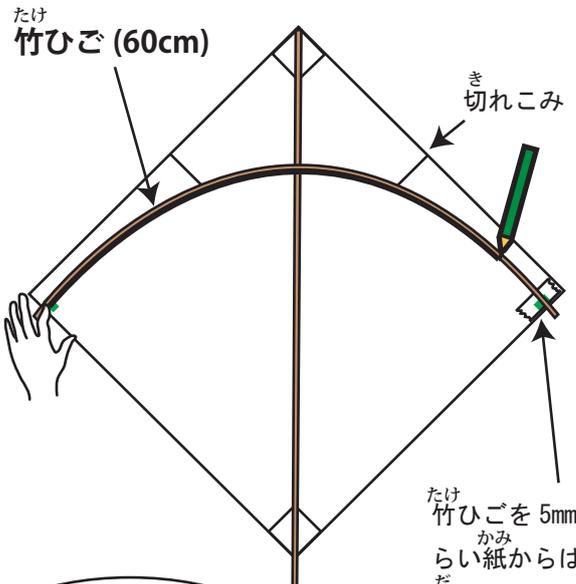
たけ
竹ひご (44cm)

② ヨコの竹ひごをはる位置を決めよう。

竹ひごを 60cm に切り、右はしの印に竹
ひごのはしを合わせて置いて、テープで
とめよう。5mm くらい紙から出るよう
にとめてね。

次に左はしの印に竹ひごをあわせて手で
おさえよう。上の切り込みに接するよう
に竹ひごを曲げてね。

竹ひごにそってえんぴつで線を書こう。



たけ
竹ひごを 5mm くら
い紙からはみだ
出させてテープ
でとめよう。

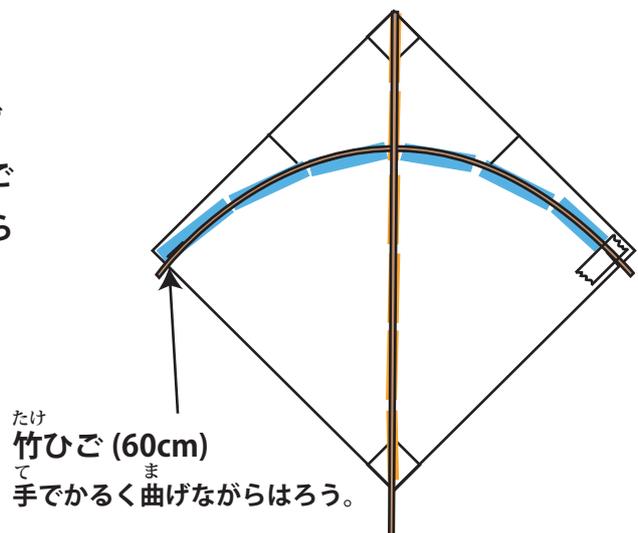
さゆう おな
左右が同じになる
ように作ろう！

③ ヨコの竹ひごをはろう。

書いた線にそって両面テープをはろう。

5cm くらいずつ切ってはるとじょうず
にはれるよ。テープをはったら、竹ひご
を左右が同じ形になるように曲げながら
はろう。

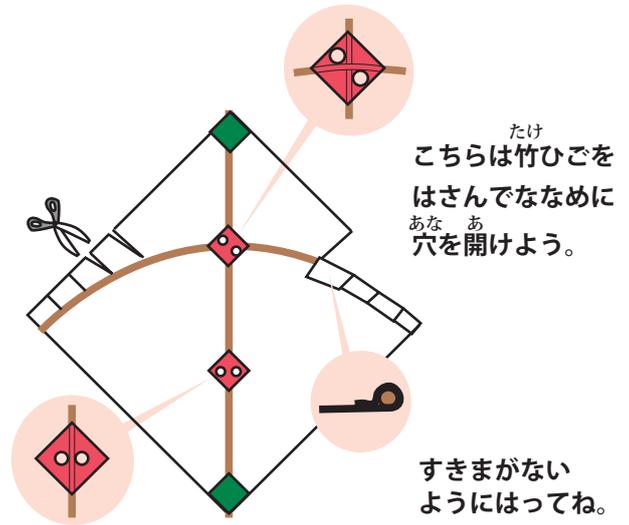
竹ひごをおらないように気をつけてね。



たけ
竹ひご (60cm)
て
手でかるく曲げながらはろう。

5. するめの形にしよう！

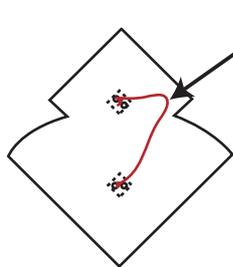
- ① 凧の肩の部分に切れ込みを入れ、竹ひごを巻くように折ってのりではろう。紙と竹ひごにすき間ができないようにはろうね。
- ② あまった紙から小さな正方形を4個切り取ろう。図の緑と赤のところのにりはってね。凧が破れにくくなるよ。
- ③ 紙をはったところの上から数えて2番目と3番目(図の赤色)に、たこ糸をつける穴を2つつあけよう。



なるべく竹ひごをはさんで
ひだりみぎおなじち
左と右で同じ位置にあけよう。

6. 凧に糸をつけよう！

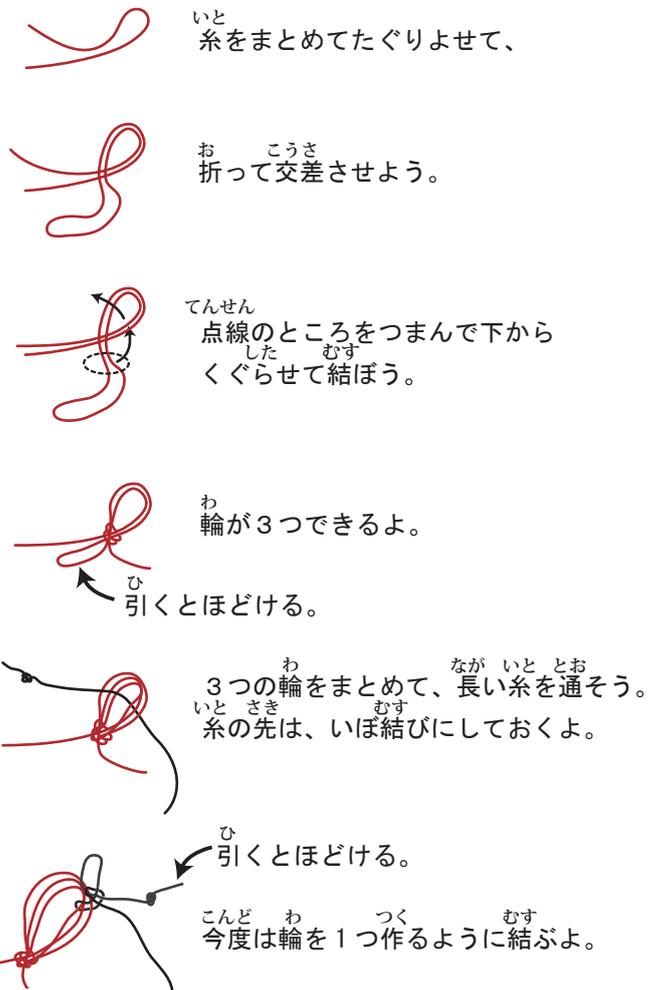
- ① あけた穴に糸を通そう。70cm ぐらいに切った糸を絵の描いてある方(オモテ)から穴に通してしっかり結ぼう。上と下の穴を糸でつないでね。
- ② 凧につけた糸を輪を作るように結び、そこに凧をあげるための長い糸を結びつけよう。



ここを結ぶよ。
最初は結び目より上の糸が少し短くなるように結んでおこう。

*するめてんばたは風の強さで上下の糸の長さを変える必要があるんだ。右の図のように結んでおくと後で糸をほどいて、長さを変えやすいよ。

糸の結び目はぜんぶオモテ側だよ。



糸をまとめてたぐりよせて、

折って交差させよう。

点線のところをつまんで下からくぐらせて結ぼう。

輪が3つできるよ。

引くとほどける。

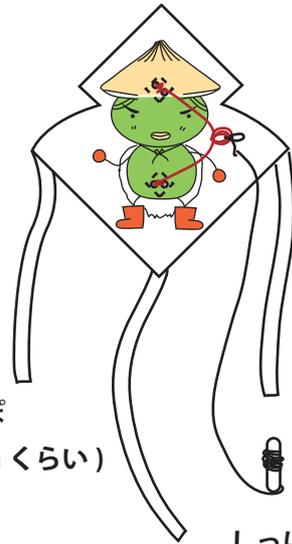
3つの輪をまとめて、長い糸を通そう。糸の先は、いぼ結びにしておくよ。

引くとほどける。

今度は輪を1つ作るように結ぶよ。

7. 凧にしっぽをつけよう！

ひだり みぎ した かみ
 左と右のはしと下に紙のしっぽをつけたら
 かんせい
 完成！



しっぽ
 (60cm くらい)

しっぽ
 (120cm くらい)

8. もし凧がうまくあがらなかったら……

① 回転して、つい落する場合

いと じょうげ なが かぜ つよ あ
 糸の上下の長さが風の強さに合っていない
 たこ さゆう かたち おも ちが かのうせい
 いか、凧の左右の形や重さが違う可能性が
 あります。
 つぎ ほうほう
 次の方法をためしてみてください。

かぜ つよ ひ たこ いと むす め うえ
 ・風が強い日は凧の糸の結び目から上の糸
 みじか
 をより短くしてみてください。

なが
 ・しっぽを長くしてみてください。

たこ たけ めん そ
 ・凧のほねの竹ひごをオモテ面がふくらむ
 すこ ま あんてい
 ように少し曲げると安定します。
 ほね お ちゆうい ひつよう
 骨を折らないように注意が必要です。

② 凧がひらひらして、すぐに落ちてくる場合

かぜ たこ いと むす め
 ・風が弱いかもしれません。凧の糸の結び目
 じょうげ なが おな なが
 から上下の糸の長さをほとんど同じ長さにし
 てみてください。

9. 凧がこわれてしまったら……

かみ たけ お ばあいしゅうり
 ・紙がやぶれたり、竹ひごが折れてもセロハンテープではれば、ほとんどの場合修理できます。
 いと いちど き むす だいじょうぶ
 ・糸がひどくからまってしまったら、一度糸を切って、結んでつないでも大丈夫です。
 ほどけないようにしっかり結んでください。

せんろ でんせん はな たの たの
 線路や電線から離れたところで凧あげを楽しもう！！

